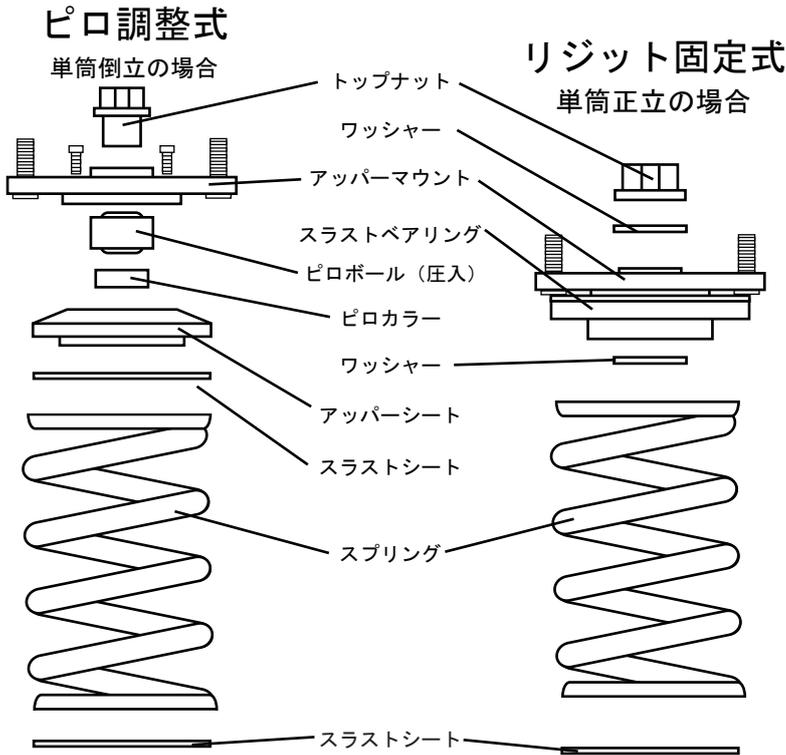


【ストラット車 倒立，正立式 車高調キット基本構造】 [31G9102]

※車種により部品が変わる事があります。(注：構造仕様は予告なく変更する場合があります)



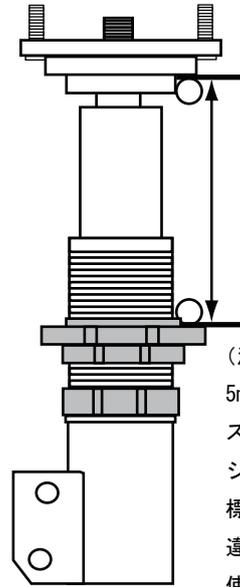
■トッパナット：締付けトルク 約 4.5 ~ 5.0K
締め過ぎますとショックネジ部の破損や
ネジ折れの原因となります。



■スタッドボルト：締付けトルク 約 3.0 ~ 5.0K
締め過ぎますとボルトスプラインの破損や
ネジ折れの原因となります。



インパクトレンチを使用する際は
トルクインパクトレンチをご使用下さい。



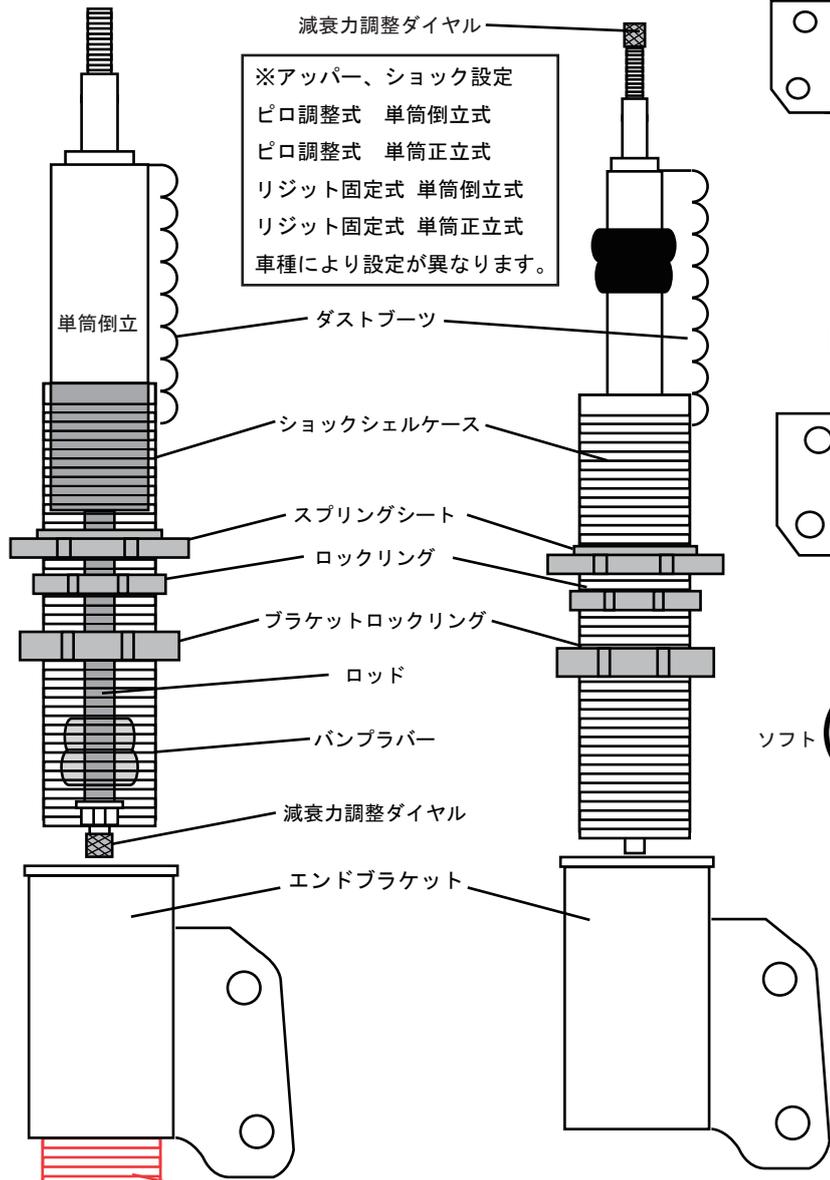
■スプリングセット長
セット長は自由長に対し
5mmのプリロードが (縮める)
基準セット長となります。
例 200mm⇒195mmに縮めてセットする



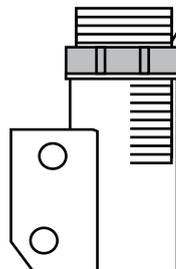
(注) スプリングセット長は
5mm ~ 10mm までにして下さい。
スプリングを過度に縮めて使用しますと
ショックの破損の原因になります。
標準スプリング以外は使用しないで下さい。
違う基準値や基準スプリング以外で
使用した場合は保証対象外となり、
破損、クレームは一切お受け致しません。

減衰力調整ダイヤル

※アッパー、ショック設定
ピロ調整式 単筒倒立式
ピロ調整式 単筒正立式
リジット固定式 単筒倒立式
リジット固定式 単筒正立式
車種により設定が異なります。



■ロック、ロアの締付けトルク 6.0 ~ 8.0K
定期的に締付けをして下さい。



ネジ部で最低 30mm 以上
入り込ませて下さい。



(注) 30mm 以下でのご使用は
絶対にしないで下さい。

エンドブラケットからショックが
抜け落ちる事があり大変危険です。



(注) 締め過ぎ、緩め過ぎに注意！！
ダイヤル、ショックの破損の原因になります。

■減衰力調整方法

右回し (締める方向) (時計回り) = ハードになります。
調整方法、まず右に締める方向に回し止まった位置ハードの
最強位置から左回しに緩める方向へ調整して下さい。
例：ハード 20 段から 10 個戻した場合は、
19. 18. 17. 16. 15. 14. 13. 12. 11. 10 (10 段目となります)
※調整ダイヤルはソフト方向へ 1 ~ 2 ノッチ多く回った場合
(-1 ~ -2 段目) 減衰力の変化はありません。減衰力調整は
あくまでもハードから戻した 20 段、25 段となります。

(注) 車高を下げ過ぎますと減衰力調整ダイヤルがドライブシャフトに干渉しますので大変危険です。

車高を下げるとショックが突き出ます。 車高調整する際はドライブシャフトに干渉しないように確認して調整して下さい。